

2-6. 今年度の成果と今後の課題

令和4年度調査で挙げられていた課題と方向性について、本調査における成果と今後の課題を以下に再整理する。

項目（令和5年度調査）		令和4年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和5年度の取組み方針	本調査における成果	今後の課題
地権者に係る事項	若手の会 定例会	・今後の若手の会の定例会の持ち方、過去に若手の会会員であった方の習得されている知識をどう継承していくかなど、若手の会の活動を次世代に繋げていくための取組み内容について若手の会として検討を進めていく必要がある。 ・今後も継続した活動に繋げるためには、社会的な組織として会則は必要となることから、会の意見を反映した会則を作成する支援を継続して行う必要がある。	・組織強化を目指して既存会員の掘り起しを適宜行うとともに、若い世代の人材育成を行う。 ・今年度のテーマについて、これまでの検討内容と関連付けたテーマを用いることで既存会員の参加のキッカケを促す。	●テーマの取りまとめについて ・若手の会として、にぎわいの方向性から「賑わいの定義づけ」を行い、テーマの共通認識を図り議論を進めた。賑わいの空間のあり方について、交通機能を関連付けて活用案を示すことができた。賑わいの空間のあり方については、公共空間を道路及びみどりに分類し、その空間において実際の過ごし方を意識した意見を取りまとめることができた。 ●定例会参加者の傾向などについて ・次の世代の引き継ぎを見据えて、積極的かつ継続的に定例会に参加し始めた会員の姿が見受けられた。また、オンライン会議での開催のため参加が遠のいていた会員が、会場に足を運ぶことが徐々に増えてきており、対面での意見交換からコミュニケーションが取りやすくなった。	●今後の活動の活性化及び意向醸成に向けた取組みについて ・今後も引き続き、既存・新規を問わず会員の掘り起こしを行い、定例会の参加人数を増やすとともに次世代に繋いでいくための取組みについて、継続して検討する必要がある。 ・これまでの検討内容も踏まえて進めることが多い状況から、初めて参加する方などは内容が把握できなくなることが考えられる。また、初めての方に参加を促す際に、定例会への参加はハードルが高い印象を持たれることも考えられる。そのことから、地権者の誰もが参加しやすい勉強会形式等、環境及び興味関心を促す内容を検討する必要がある。 ・将来的に地権者の意向を取りまとめていくにあたり、地主会との連携をより強化し、跡地利用計画に対する共通認識を持った上で意向醸成活動を進めていく必要がある。
	まち歩きの 企画・開催		・過年度で検討を進めてきたテーマのブラッシュアップと、既存・新規会員の掘り起こしを行う。	●地域資源や公共施設を活用したまちづくりに関する知見の習得 ・ガンガラーの谷では、通常の観光スポットと違い「ガイドと一緒に歩くガイドツアー専用」とすることで、ここにしかない歴史と自然を感じることができた。自然・歴史・文化の価値を活かした、地域資源を活用したまちづくりに関する知見の習得を図ることができた。 ・公共駐車場や施設を、民間企業や市民が活用していくことで人が集まる賑わいが創出され、まちの活性化に繋がる。公共施設を活用したまちづくりに関する知見の習得を図ることができた。	●周知及び参加者の取込みについて ・地権者意見交換会で告知を行い、若手の会 8 名、普天間飛行場の地権者 7 名の参加があった。より多くの方に参加していただけるよう周知方法について工夫する必要がある。

項目（令和５年度調査）		令和４年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和５年度の実施方針	本調査における成果	今後の課題
地権者に係る事項	地権者意見交換会	・地権者の意向醸成を進め、普天間飛行場返還後の円滑な跡地利用を促進するため、今後も継続して地権者意見交換会を開催し、より多くの地権者へ跡地利用計画に対する興味・関心を喚起し、意見等を引き出す必要がある。 ・将来的に跡地利用計画の内容について深い知識を習得した地権者を増やしていくためにも、毎年度継続して参加しようと思えるような取組みや意見交換のテーマ設定等、検討していく必要がある。	・地権者に対し、全体計画の中間取りまとめ（第２回）の検討内容に関する情報提供と知識の習得、跡地利用計画に対する興味・関心を促す。	●参加者数の傾向と周知方法について ・若手の会からの参加者数は増加し積極性の向上がうかがえたが、地権者の参加者数は減少した。 ・地権者支援情報誌「ふるさと」と案内文書で周知をおこなった。多くの方がご覧になり、来場したくなる誌面等の工夫が必要となる。 ●説明会の運営について ・説明方法について、配布資料と説明内容に相違が感じられたことから、地権者の誤解を招く懸念が生じることから、地権者にも伝わりやすい進め方や表現の工夫が必要となる。 ・意見交換の進行について、参加者の意見の引き出しやテーマに沿うことが難しいグループが見られたため、進行役を複数人割り当て、テーマの認識の共有化を定例会などで図る必要がある。	●地権者の参加数を増やす工夫について ・開催日について五十日（繁忙日）などに配慮することと、周知方法について、多くの地権者の目にふれるよう封筒のデザインや口コミ等の工夫を図る必要がある。 ●地権者の知識習得及び意見収集を促す説明会のスムーズな運営について ・若手の会の取組み紹介については、経験豊富な会員のみではなく、多くの会員の方が若手の会をアピールできるよう説明者のすそ野を広げるため、これまでに説明されていない方を中心に毎回担当者を変えておこなうことも事前の役割分担等で議論する必要がある。
	情報発信（地権者） ふるさとの発行	・誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。 ・誌面だけでは伝わりづらい内容については、動画を撮影してリンク先を記載するなど、誌面で伝える部分と動画で伝える部分を仕分けすることで、より効果的な情報誌になるよう継続する必要がある。	・誰にでも分かりやすい情報誌とする。	●跡地利用等に関する情報発信について ・全地権者に対して、若手の会の取組みや跡地利用に関する合意形成活動の情報を発信する事ができた。 ・次年度に企画・検討している「地権者を対象としたまちづくり勉強会」の案内を事前に掲載することで、次年度当初からの地権者の積極的な参加につながるよう工夫を行った。	●見やすさ及び分かりやすさの工夫について ・誌面の見やすさ、内容については更なる工夫を凝らし、より多くの地権者に見ていただけるよう努める必要がある。 ・誌面だけでは伝わりづらい内容については、動画を撮影してリンク先を記載するなど、誌面で伝える部分と動画で伝える部分を仕分けすることで、より効果的な情報誌になるよう継続する必要がある。
地権者・市民に係る事項		・伊佐公民館を会場に実施し、会場周辺の住民の方を中心に参加して頂くことができたが、今後、学生や宜野湾市内全体からより多くの方に参加して頂けるよう周知を工夫する必要がある。 ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、庁内関連部署との連携や情報共有、講座の内容を踏まえて実践に向けた地域活動支援が望まれる。	・市民、学生、地権者、若手の会に対して普天間飛行場跡地利用について学習する機会を提供し、まちづくり人材育成に繋げるためにまちづくり講座を実施する。	●開催方法と開催結果について ・沖縄国際大学とコラボし、大学２年生の中から２クラスに協力頂き演習授業を通じた取組みを実施することができた。 ・大学生による企画提案を市民、地権者、若手の会及び NB ミーティングに対して発表し、学生とともに作るまちづくりについて考える講座を開催することができた。 ●合意形成・情報発信の取組について ・大学生が、10月から約２か月間の演習授業を通じて普天間飛行場の跡地利用とその周辺市街地におけるまちづくりについて企画提案する機会をつくることができた。 ・今後普天間飛行場のまちづくりに向けた具体的な取組の重要な担い手の一役を担う大学生とともに進めるまちづくりについて、市民、地権者、若手の会及び NB ミーティングの方々に伝える機会をつくることができた。	●沖縄国際大学とのコラボについて ・次年度以降継続して演習授業を活用した取組を行う。 ・演習授業実施の際にはコンサルが各回に出席してグループワークのサポートをすることが望ましい。 ●今後の計画づくりについて ・まちづくり活動の実践に繋がるよう、学生を始めまちづくり活動の担い手の受け皿となる組織（場）づくりに向けて２～３年程度の計画を立てて実施することが望まれる。

項目（令和５年度調査）		令和４年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和５年度の実施方針	本調査における成果	今後の課題
地権者・市民に係る事項	先進地視察会及び合同勉強会の開催	・行政としてできること、地域ができること、企業がすることはそれぞれ限られているため、普天間飛行場返還後のまちづくりについて具体的な検討を進めていく段階においては、各々の立場でできることを提案しながら進めていくことになると考えられる。そのため、今回習得した知識をもとに、現時点から産学官民の連携のあり方について少しずつでも検討を進めていく必要がある。	・先進地のまちづくり事例を習得し、知見の共有を図る。	●産学官民が連携したまちづくりに関する知見の習得と共有について ・学生がまちづくりの拠点の運営、また、企画したイベント等を学生自ら実践することで、まちづくりの担い手を育成する仕組みを構築している。まちづくりの担い手育成に関する知識を習得し、知見の共有を図る事ができた。 ・歩行者や自転車に配慮したウォークアブルな道路空間や、歩道をイベント等に活用できる広場を備えた道路では、老若男女問わず人々の交流が生まれており、まちに新たな価値を創出している。賑わいと人々との交流が創出されるまちづくりに関する知識を習得し、知見の共有を図る事ができた。	●学生との連携のあり方について ・普天間飛行場返還後のまちづくりについて、将来を担う学生のまちづくり人材育成が必要と考える。本視察で習得した知識をもとに、行政や市民・企業が宜野湾市内外の学生と連携したまちづくりの取組みについて検討を進めていくために、学生がまちづくりに関われる場を今後設けていく必要がある。
	イベントの企画・開催	・アンケート結果から、普天間飛行場返還後のまちづくりへ興味を持てたと回答した方の割合が９割以上となっており関心の向上が図られたが、興味を持てなかったと回答した方の中には「結局どうなるかわからない」といった意見があったことから、次回は跡地利用を考える目的等を伝えるパネルを加えることや、更に多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。	・跡地利用に関する情報や行政の取組みについて周知を図るため、多くの全世代を対象としたパネル展を開催する。	●多くの人が集まる場での情報発信ができた ・これまで開催場所に人を呼び込む必要があったが、今回は祭り会場での開催であったため、人が集まる場で多くの方の目に触れる機会を設けることができた。	●情報発信の充実を図る ・展示スペースの規模を拡大し、多くの方が立ち着いてパネルを観覧することができるようにする必要があり、今後さらに情報発信の機会を作り、更に多くの方が観覧できる会場を見つける等、情報発信の充実を図る必要がある。
	まち未来だよりの発行	・市民に対して跡地利用に関する情報を提供し市民の関心を高めるため、情報支援ツールとして「まち未来だよりの」は重要である。そのため、紙面の見やすさ、分かりやすさについては更なる工夫を凝らし、より多くの市民に見ていただけるよう努める必要がある。	・市民に対し、跡地利用への興味・関心を高めるため情報発信を行う。	●跡地利用のまちづくり意向醸成に向けた取組みに関する情報発信について ・市民のまちづくり醸成を目的に実施した「まちづくり講座」「まちづくりパネル展」等に関する内容等を掲載し、市報ぎのわんへの挟み込みを通じて全世帯へ発信することができた。	●市民が跡地利用のまちづくりに興味関心を持つための工夫 ・近年は、意向醸成に向けた取組み内容および「全体計画の中間とりまとめ」の周知を中心に誌面構成を行っている。今後は、跡地のまちづくりに向けた現在のスケジュールを分かりやすく誌面で示していくことで、市民へ跡地利用のまちづくりに向かって着実に進むことを感じていただき、取組みへの興味関心を図ることが必要である。
	市内各種団体に対する情報発信及び広報	・今回はキックオフミーティングであったため、参加者も新鮮味があり様々な考えや意見を交換することができた。今後も引き続き懇談会を開催する場合は、意見交換テーマや議論の内容に興味を持たせるようにする必要がある。 ・今後、懇談会を継続して開催するにあたって、返還後のまちづくりの担い手となる若い世代の人材掘り起しを視野に入れて取り組む必要がある。	・市内各種団体の代表が一堂に会して意見交換を行うことで、将来の継続したまちづくりの議論に繋げていき、今後のけん引役となる人材の掘り起こしを行う。	●個別団体との意見交換による、市民目線でのまちづくりの課題 ・女性団体連絡協議会、自治会長会の２団体と個別の意見交換を行ったことで、各団体が普段から気にかけている視点から浮かび上がり、市民目線でのまちづくりの課題が明確になった。	●個別意見交換会の継続した開催 ・今回は２団体と意見交換を行ったが、今後も継続して他団体との意見交換を継続し、市民目線での跡地利用計画に対する機運を少しずつ高めていく必要がある。 ●新たな若い世代の人材掘り起し ・今後、返還後のまちづくりの担い手となる若い世代の人材掘り起しを進めていく必要がある。 ●共通する意見として発信しやすい項目の設定 ・団体によっては、各団体の集合体である場合もあるため、意見集約を行うにあたっては、共通する意見を発信しやすい項目を検討する必要がある。

項目（令和５年度調査）		令和４年度調査で挙げられていた課題・方向性	令和５年度の実施方針	本調査における成果	今後の課題
市民に係る事項	出前講座の企画・開催	・次年度以降も多くの児童センターや公民館等で開催することで、多くの児童・生徒に対し、まちづくりへの周知や、小・中学校の出前講座開催につなげる必要がある。 ・児童の付添いで参加した保護者の方々からも、楽しかったとの声が寄せられた。次年度は、保護者の参加も積極的に呼び掛けていくことにより、跡地のまちづくりへの興味・関心を持つ市民を増やしていくことが必要と考える。	・児童・生徒向けに制作したプロモーションビデオ（PV）をきっかけとした、児童・生徒が自ら普天間飛行場跡地のまちづくりに対し興味・関心を持つようなプログラムを実施する。	●児童・市民に対し普天間飛行場跡地に関する興味・関心を高めることができた ・児童・生徒へ向けて制作したプロモーションビデオを活用することで、跡地利用に関する興味・関心を高めることができた。 ・今年度は小学３年生～小学６年生を対象に開催したが、学年毎に講座内容を変更することで、低学年から高学年まで楽しみながら跡地のまちづくりについて考えることができた。 ・授業参観日に開催したため、児童・生徒のみ対象ではなく保護者にも参加を促した。参加した保護者からも「楽しかった」との声が寄せられ、市民に対しても跡地利用計画に関する周知を図ることができた。	●児童・生徒の普天間飛行場跡地に関する興味・関心を促す取組みについて ・跡地利用計画のプロモーションビデオは、小学校高学年～中学生向けに制作していたため、低学年には跡地利用計画部分の内容が少し難しいと感じた。小学校低学年向けのプロモーションビデオの制作について検討が必要と考える。 ・過年度までは児童センターや小学校での開催が主だったが、より多くの児童・生徒に対し普天間飛行場跡地のまちづくりについて周知を図るため、校長会等で中学校にも積極的に声掛けを行う。 ●市民の継続的な普天間飛行場跡地に関する興味・関心を促す取組みについて ・授業参観日に開催することが想定されるため、出前講座の本番までに保護者向けのチラシを事前に配布するなど、多くの保護者が授業参観に参加いただけるよう周知を図る。
	パネル展の開催		・児童が考える普天間飛行場跡地のまちづくりについて、市民に対し周知を図る。	●市民に対し、普天間飛行場跡地に関する意見収集を図ることができた ・パネル展を観覧した市民から、普天間飛行場跡地に関する意見収集を図ることができた。	●周知方法・アンケートの回収率を高めるための工夫について ・アンケートの結果から 10 代と 60 代の観覧が多かった。多くの市民に観覧いただくためにも、周知方法について工夫が必要であることから、宜野湾市 HP や情報誌ふるさと等も活用し周知を行う。 ・多くの市民から普天間跡地のまちづくりについてご意見をいただくために、アンケートの回収率を高めるための工夫が必要であることから、紙のアンケート用紙記入以外に Google フォームなどを活用し回収率を高める方法を実施する。
評価及び検証		・意向醸成活動を進めるにあたって、今後も継続して意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。	・合意形成活動の実施に関する提言・助言などをいただき、地権者等関係者の着実な合意形成活動に繋げていく。	●次年度の実施の方向性について - 以下の内容に関する実施の方向性や考え方について意見を伺う事ができ、次年度の意向醸成活動を進めていくにあたり、留意すべき事項が明確となった。 ・跡地利用計画構想段階において、地権者、市民の意見を伺うべき事項 ・若手の会の現状を踏まえた、今後の会としての方向性 ・市民目線で意見交換しやすいテーマを設定するにあたっての考え方 ・小学校や大学など教育機関と連携した取組みの継続性を高めるにあたって、提案いただいた事項を実現するための組織づくり、場づくりの重要性	●継続した議論の必要性について ・意向醸成活動を進めるにあたって、今後も継続して意見聴取を実施し、方向性、手法等に関する検討を進めていく必要がある。 ●有識者の新たな人選、追加について ・跡地利用計画は令和５年度の行程計画の更新を踏まえて、具体的な計画策定に向けて取り組まれる予定である。そのため、合意形成に関しても現有識者のまま継続して意見をいただくのではなく、新たな人選を行うなど計画の具体化に対応して意見聴取を進めていく必要がある。